

# 新生 JR 東労組成田支部より職場で働く皆さんへ

現在、全国に「緊急事態宣言」が発出されています。「いつどこで感染してもおかしくない」という恐怖と、目に見えてお客様が減少する現実を目の当たりにして「収束しても以前の収入に戻るのか」「他企業が倒産や解雇を行うニュースを見て自分達の雇用は大丈夫なのか」「以前の生活に戻れるのか」など、先の見えない状況への不安が増え、仕事に対するモチベーションが低下し職場も暗い雰囲気になっている現実です。そんな中でも皆さんが指定公共機関の社員としての誇りを持って自分が感染しない、そしてお客さまに感染させずに公共交通を維持するという使命を守る為に、各自細心の注意をしながら業務を遂行してくれている姿は同じ現場で働く者として、こんな暗い状況でも前を向くための力になります。

改めて鉄道・バスの組合員、職場で働く全ての皆さんに敬意を表します。

今の日本は、収入がゼロの業種の急増や、学生の就職内定取り消し、テレワークによるリストラ対象者のあぶり出し、黒字企業でのリストラが報道され「雇用」が危ぶまれています。これは家族の生活まで困窮させ、最悪は「命」の危機にも繋がります。

これらの動きは、JR東日本グループも決して例外とは言えません。公共交通全体で観光流動だけではなく定期収入も激減する中、タクシー会社での大量解雇や航空業界・鉄道業界での一時帰休など、雇用の不安定化や賃金を抑制する動きが活発化しています。利益のためにあらゆる手を尽くす、それが資本主義社会です。終身雇用や年功賃金、職種など、あらゆる激変の「当事者」になるという危機意識を持つ必要があります。雇用危機とも言える今こそ、法的に就業規則よりも優先される「労働協約」を会社と締結し、組合員の雇用や立場をより強く守ることができる「労働組合」の存在が、不安なく安心して働ける環境を守る盾となり、組合員や家族を守ることに繋がります。

JR東労組は、組合員と家族の幸福のために、雇用確保と労働条件の向上に取り組んできました。そして、新型コロナウイルスの対応をめぐっては職場の声をもとに、様々な場面で会社と真摯に向き合い、職場の対策について具体的に議論しています。

成田支部としても2月2日にバス八日市場分会へ2月3日には佐倉運輸区分会、銚子運輸区分会と早い段階で携帯用アルコール消毒を配布するなど、微力ながら皆さんやお客さまを守るために対応しました。これができるのは皆さん一人ひとりの「声」があったからです。一人では弱い私たちの声を集約、共有化して職場の声として会社と議論していくことが安心して働ける環境づくりにつながりますので、支部、分会役員に皆さんの声を届けてください。

最後に職場で働く組合員、全ての皆さん！私たちはこれまでも震災、台風などいくつもの苦難を乗り越えてきました。今は本当に苦しいですが乗り越えた後には以前のように楽しいレクを企画しますので、みんなであの時は大変だったと笑顔で語り合えるように、新生JR東労組に結集して、雇用と生活を守り、この苦難を共に乗り越えていきましょう！

2020年4月27日  
東日本旅客鉄道労働組合  
千葉地方本部成田支部